

古瀬清秀先生のご退職にあたって

野 島 永

平成27年3月、古瀬清秀先生が広島大学文学研究科を退職された。学生時代から数えれば、都合46年間広島大学におられたことになる。先代の教授達がはやくになられたため、まさに考古学研究室の生き字引きである。

古瀬先生は1950年、香川県大川郡神前村（現さぬき市寒川町神前）に生まれられた。最終講義でも話されたのだが、小学生のころ、ご尊父が裏山の木を庭に移植しようとしたところ、錆びた鉄刀が出土したらしい。それが、長尾古墳群のひとつであることがわかったのはかなり後のことなのだそうです。清秀少年にはそれがとてもすごいことに思えたらしい。これが契機となり、考古学に興味を持たれるようになった。中学時代にはとくに近隣の古墳に興味を持ち、卒業生皆よく知る華々しい「活躍」をされることとなる。さらに高校生のころは高松高校同級の竹岡俊樹氏や安川豊史氏（昭和43年卒業生）とともに香川県の遺跡の踏査を行われた。このような活動が周囲に知られるようになって、高校の恩師からは大学では考古学を専攻することをアドバイスされ、広島大学文学部考古学専攻に入学された。

以来半世紀近く、広島大学において古墳時代の研究を中心に調査研究を継続してこられた。とくに古墳時代の副葬農工具の研究において基礎的な分類・編年を確立された。また、帝釈峡遺跡群の発掘調査では、永らく観音堂洞窟遺跡を担当してこられた。



2015（平成27）年2月12日、最終講義の記念撮影（広島大学文学研究科玄関前にて）

学界運営においては、2002・2003年度の1期2年間、日本西アジア考古学会副会長、2008年10月から広島大学文学部考古学研究室に事務局を置いたたら研究会会長、2009年12月から中四国前方後円墳研究会会長などを務め、考古学関連学会の運営と発展に貢献してこられた。

さらに、社会活動では広島県における埋蔵文化財の普及啓発に関わり、広島県文化財保護審議会委員・広島県教育事業団理事および広島県埋蔵文化財調査室指導委員会委員・広島県河川整備計画検討委員会委員・広島市文化財審議会委員・広島市文化財団理事・東広島市三ツ城古墳整備指導委員会委員・東広島市史跡安芸国分寺跡整備指導委員会委員・福山市文化財保護審議会委員・竹原市文化財保護委員会委員・庄原市文化財保護審議会委員・廿日市市文化財保護審議会委員など、多くの要職を務め、文化財行政に重要な提言を行ってこられた。さらに、2010年度から日本考古学協会理事を歴任され、考古学・埋蔵文化財と現代社会との連携に重要な役割を果たしてこられた。

古瀬先生はいつも「一蓮托生」、「知恵はなくとも力持ち」といった言葉で考古学研究室をまとめてこられた。発掘調査や測量実習など気を配らねばならないフィールドワークを遂行するためには、他人との協業を実現するコミュニケーション能力と、自ら動き働いて見せる実行力が欠かせない。研究もそのうえに立脚したものだということであろう。今後とも古瀬先生には多方面でのご教導をいただき、また後進を見守っていただきたいと考えている。以下に古瀬先生の略年譜および著作を掲載しておきたい。

古瀬清秀先生略年譜および主要著作目録

年 譜

- 1950（昭和25）年 香川県さぬき市寒川町神前にて出生
- 1956（昭和31）年 神前村立小学校入学
- 1962（昭和37）年 寒川町・長尾町組合立中学校入学
- 1965（昭和38）年 香川県立高松高等学校入学
- 1969（昭和44）年 広島大学文学部史学科入学
- 1973（昭和48）年 広島大学文学部史学科卒業
- 1975（昭和50）年 広島大学大学院文学研究科考古学専攻修士課程修了
- 1975（昭和50）年 広島大学大学院文学研究科考古学専攻博士課程入学
- 1976（昭和51）年 広島大学文学部助手（同年復学）
- 1980（昭和55）年 広島大学大学院文学研究科考古学専攻博士課程後期単位修得退学
- 1980（昭和55）年 広島大学文学部助手
- 1994（平成6）年 広島大学文学部助教授
- 2001（平成13）年 広島大学大学院文学研究科教授
- 2015（平成27）年 広島大学大学院文学研究科退職

学 位

- 1999（平成11）年 博士（文学）広島大学乙第3240号

著 作（共 著）

- 1996（平成8）年8月 『吉備の古墳』（下）備中・備後編 吉備考古ライブラリィ5 吉備人出版
2002（平成14）年10月 『鉄と銅の生産の歴史』雄山閣出版

論 文

- 1974（昭和49）年10月 「古墳時代鉄製工具の研究－短冊形鉄斧を中心として－」『考古学雑誌』第60巻第2号
1977（昭和52）年3月 「古墳出土の鉈の形態的変遷とその役割」『考古論集－松崎寿和先生退官記念論集』広島大学考古学研究室
1982（昭和57）年12月 「広島県出土の中国鏡について－上－」『広島大学文学部紀要』42巻
1991（平成3）年4月 「安芸（前方後円墳集成）」『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版
1991（平成3）年11月 「古墳時代の鉄器の生産」『古墳時代の研究』生産と流通 第5巻 雄山閣出版
1991（平成3）年11月 「古墳時代の農工具」『古墳時代の研究』生産と流通 第8巻 雄山閣出版
1992（平成4）年11月 「古墳時代における備後北部の特質－特に三次盆地を中心に－」『吉備の考古学的研究』（下）山陽新聞社
1993（平成5）年3月 「初期埴輪と畿内政権」『考古論集－潮見先生退官記念論集』広島大学考古学研究室
1994（平成6）年3月 「第Ⅱ部 瀬戸内～九州 広島県」近藤義郎編『日本土器製塩研究』青木書店
1996（平成8）年11月 「近世たたら吹き製鉄への道」『季刊考古学』第57号 雄山閣
1998（平成10）年4月 「広島県における中期古墳の特質」『広島県文化財ニュース』156号 広島県文化財協会
1999（平成11）年5月 「広島県前期古墳出土の特徴ある青銅鏡について」『考古学から見た地域文化』溪水社
2000（平成12）年10月 「古墳時代前半期における鉄鍛冶技術」『製鉄史論文集』たたら研究会40周年記念論集
2002（平成14）年3月 「見て触って知る古墳時代の鉄・鉄器生産」『下関市立考古博物館・研究紀要』6号
2002（平成14）年9月 「イランの鉄文化」『古代イラン秘宝展』岡山市立オリエン特美術館特別展図録
2002（平成14）年11月 「鉄製品－鉄鍛冶の実験考古学的アプローチ－」『季刊考古学』第81号 雄山閣
2004（平成16）年3月 「鉄滓から見た鉄鍛冶技術」『考古論集－河瀬正利先生退官記念論集』広島大学文化財学研究室
2005（平成17）年11月 「考古学から見た鉄精練鍛冶」『考古論集－川越哲志先生退官記念論集』広島大学考古学研究室
2006（平成18）年11月 「安芸・備後における前期古墳の様相」『日本考古学協会2006年度愛媛大会研究発表資料集』
2006（平成18）年11月 「三次地域における前半期古墳」『芸備』芸備友の会
2009（平成21）年7月 「3世紀の安芸の集落と初期古墳」『邪馬台国時代の西部瀬戸内と近畿』香芝市教育委員会
2010（平成22）年8月 Preliminary Report of the Iran Japan Joint Reseach Study of the Gorgan Material in the National Museum of Iran, Tehran, 『筑紫女学園大学・短期大学部 人間文化研究所年報』No.21
2012（平成24）年9月 「各地の古墳－瀬戸内－」『古墳時代研究の現状と課題』上 同成社
2013（平成25）年12月 「津田古墳群と讃岐の畿内化」『私の考古学』丹羽佑一先生退任記念論文集

報告書等

- 1976（昭和51）年 7 月 『龍岩・小保利・上春木埋蔵文化財発掘調査報告書』 龍岩・小保利・上春木遺跡発掘調査団（共著）
- 1979（昭和54）年 3 月 『峠古墳発掘調査報告書』 峠古墳発掘調査団（共著）
- 1980（昭和55）年 3 月 『犬塚古墳群発掘調査報告書』 犬塚古墳群発掘調査団（共著）
- 1981（昭和56）年 3 月 「大崎上島諸島における製塩遺跡について」『大崎上島共同学術調査報告』『内海文化研究紀要』 9 号 広島大学文学部内海文化研究室
- 1985（昭和60）年 3 月 『保光たたら』 保光たたら発掘調査団（共著）
- 1985（昭和60）年 3 月 「福山市宇治島北の浜遺跡第 2 次発掘調査」『内海文化研究紀要』 13 号 広島大学文学部内海文化研究室（共著）
- 1986（昭和61）年 3 月 「広島県蒲刈町・沖浦遺跡採集資料（1）」『内海文化研究紀要』 14 号 広島大学文学部内海文化研究室（共著）
- 1987（昭和62）年 4 月 「広島県蒲刈町・沖浦遺跡採集資料（2）」『内海文化研究紀要』 15 号 広島大学文学部内海文化研究室（共著）
- 1995（平成 7）年 3 月 『辰の口古墳発掘調査概報』 広島県神石町（共著）
- 2000（平成12）年 3 月 『鍛冶実験と鉄滓から見た日本古代の鉄鍛冶』 平成 9～11 年度科学研究費補助金成果報告書
- 2002（平成14）年 3 月 「岩崎山古墳群について」『香川県津田町・岩崎山第 4 号古墳発掘調査報告』 香川県津田町教育委員会
- 2002（平成14）年 3 月 『帝釈峡遺跡群－調査と研究40年－』 広島大学考古学研究室（共著）
- 2002（平成14）年 9 月 「瀬戸内海における古代海上交通と祭祀」『創立15周年記念事業 瀬戸内海に関する研究』（財）福武学術文化振興財団（共著）
- 2003（平成15）年 3 月 「まとめ」『金田石谷製鉄遺跡』 広島大学大学院文学研究科考古学研究室（共著）
- 2003（平成15）年 3 月 「瀬戸内島嶼部及び沿岸部の遺跡踏査－古代海上交通と祭祀に関して－」『内海文化研究紀要』 31 号 広島大学大学院文学研究科内海文化研究施設（共著）
- 2006（平成18）年 3 月 「厳島における考古学的踏査とその検討（1）」『内海文化研究紀要』 34 号 広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設（共著）
- 2007（平成19）年 3 月 「厳島における考古学的踏査とその検討（2）－大川浦遺跡に関する考古学的検討－」『内海文化研究紀要』 35 号 広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設（共著）
- 2008（平成20）年 3 月 「厳島における考古学的踏査とその検討（3）－大川浦遺跡に関する考古学的検討－」『内海文化研究紀要』 36 号 広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設（共著）
- 2008（平成20）年 3 月 『古代山陽道と神辺平野の文化財』 広島大学大学院文学研究科考古学研究室（広島大学地域貢献研究助成事業）（共著）
- 2013（平成25）年 3 月 「副葬品からみた津田古墳群の特質」『津田古墳群調査報告書』 さぬき市教育委員会
- 2013（平成25）年 3 月 『製鉄実験の記録』 広島大学文学研究科考古学研究室（共著）

地方自治体史他

- 1985（昭和60）年 3 月 「原始・古代の寒川町」『香川県大川郡寒川町史』 寒川町史編集委員会
- 1988（昭和63）年 3 月 「古墳文化の特質・古墳の地域的展開」『香川県史』 第 1 巻 原始・古代 四国新聞社
- 1999（平成11）年 1 月 「古墳時代の生活と文化」『東城町史』 通史編 東城町史編纂委員会

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 2000（平成12）年4月 | 「無文字社会の痕跡」『蒲刈町誌』通史編 蒲刈町教育委員会 |
| 2001（平成13）年3月 | 「ひろしまの古墳文化」『平成12年度事業記録集』広島市文化財団 |
| 2002（平成14）年10月 | 「呉のあけぼの」『呉の歴史』呉市史編纂委員会 |
| 2004（平成16）年10月 | 「神石の古代」『広島県文化財ニュース』181号 広島県文化財協会 |
| 2005（平成17）年3月 | 「考古学から見た古代の音戸」『音戸町誌』音戸町誌編纂検討委員会 |
| 2007（平成19）年4月 | 「さぬき市の古墳文化」『さぬき市文化財協会報』6 |
| 2008（平成20）年3月 | 「川尻のあけぼの」『川尻町誌』通史編 呉市 |